

平成17年度 事業評価書

地 域 名	福島県いわき市	選定年度	H16年度	事業規模	大規模事業
まちづくり協議会名	環境ネットワークシティ・いわき推進協議会				
モデル事業名	環境ネットワークシティ・いわき				

1. 事業の実施状況

委託事業	H16年度	意識醸成事業として、環境教育プログラムの調査や地域環境資源マップを作成。事業者向けにはエコアクション21を活用したいわきEMSを作成。協力参画事業として、リサイクル体験事業・自然ふれあい事業やバイオマス利活用システム構築の為の基礎調査等を実施。
	H17年度	意識醸成事業として、環境資源データの収集整理・マップ化や児童向け環境教育プログラム、事業者向け温室効果ガス排出量計算ソフト等を作成。協力参画事業として、リサイクル体験事業・自然ふれあい事業等を実施。また、市民参画で木質ペレット燃料事業の調査等を実施。
交付金事業	H16年度	廃棄物エネルギー活用事業として、廃棄されるスプレー缶を処理し、缶内のガスを燃料として取り出すスプレー缶ガス再利用設備を設置。地熱エネルギー活用事業として、生ごみ処理機に温泉熱を供給する熱交換設備を設置。バイオマスエネルギー活用事業として、廃食用油を軽油代替燃料に再生するBDF製造施設を設置。また、木質バイオマス熱分解ガス化コージェネレーション施設の第1期工事を実施。
	H17年度	バイオマスエネルギー活用事業として、製材工場から発生する残材を利用した木質ペレット製造設備を設置。また、木質バイオマス熱分解ガス化コージェネレーション施設の第2期工事を実施し、完成。

2. 評価・分析

①事業の特色・モデル性	<p>産業づくりを担う事業者と、人づくりを担う市民団体や学校との連携を、行政がコーディネートするという、それぞれの役割が明確でバランスよく推進されており、多様な主体の参加による普及啓発事業が行われている。食用油再生事業(BDF製造施設)は住民を巻き込んだの事業であり、廃材利用の木質ペレット事業と共に、地域資源活用の視点が生かされている。温泉熱利用リサイクル事業も、温泉地のモデルとして活用できる。住民と行政の協同参画事業のモデルでもある。</p> <p>今後は、食用油再生事業、木質ペレット製造設備整備事業等で整備された施設を普及啓発に活用するとともに、事業の更なる発展に向け、地域内での資源回収から製品の供給に渡るシステムの充実に期待したい。</p> <p>特に食用油再生事業、木質ペレット製造設備整備事業等は、今後他の地域でも導入が見込まれるものであるため、参考となるようその導入・維持管理等に関する情報の発信に努めてほしい。</p>
-------------	--

地 域 名	福島県いわき市	選定年度	H16年度	事業規模	大規模事業
②環境保全効果 (二酸化炭素排出削減効果等)			備 考		
	目 標 値	2,709	H16年度事業分		
	実 績 値	659	H16年度整備施設のH17年度稼働実績		
	(目標値・実績値単位:t-CO2/年)				
<p>スプレー缶ガス再利用事業について、従来単に焼却処理されていた残存ガスを隣接する関係会社の燃焼炉燃料等に使用し、既存の化石燃料使用量削減に繋がる有効なシステムを構築したものであり、評価できる。今後目標収量の確保に努められたい。</p> <p>食用油再生事業(BDF製造施設)について、副生物(グリセリン)をボイラーの助燃剤として活用することにより、BDF製造に係る重油使用量の削減を図っており、二酸化炭素排出削減の観点から評価できるが、BDFの製造量については目標に対し低調で推移していることから、今後原料である食用油の回収手法等を検討し、BDFの生産量を増加させることが望まれる。</p> <p>温泉熱利用食品リサイクル事業について、温泉熱の活用という地域資源の活用という点で評価できる。今後の予定として、独自事業ではあるが事業規模の拡大も計画されており、今後の展開に期待したい。</p> <p>スプレー缶ガス再利用事業や、食用油再生事業は、施設容量に対し回収量が下回っている。地域住民への普及活動の内容に関し、リサイクル事業への参加を促すなど、内容面での具体的な連携が重要である。特に、スプレー缶ガスの再生利用は珍しく、平成17年度には多量のLPG使用量削減に期待が持てるので、一層の取組による環境保全効果に期待する。</p>					
③経済活性化効果	<p>スプレー缶再利用事業では、隣接プラントにおけるカーボンブラック製造時の燃料費節減及び廃スプレー缶からの回収ガスの売上による直接効果が得られており、食用油再生事業(BDF製造施設)では、軽油代替燃料としての売上による直接効果が得られているが、事業の効果としては当該事業の維持管理等に係る支出も算出し、収支を把握した上で評価する必要がある。</p> <p>また、事業の費用対効果は重要な要素であるので、それぞれの事業の費用削減について更なる検討を重ねられたい。</p> <p>なお、19年度以降の評価対象である木質ペレット事業は、全国各地の状況から経済的な支援あるいは工夫が必要であるので、より収益を上げるような努力が必要と思われる。</p>				
④その他	<p>継続にあたり、産業界と住民をつなぐ地域事業者を巻き込んで、このモデル事業を地域活性化につなぐような積極的な取組を期待する。</p> <p>重化学工業都市としての発展の中で「環境産業振興」に向けての努力がうかがえる。市民協働のまちづくりの観点からも、工業都市の模範となるよう期待する。</p>				